

しゃばのしがらみを超えて、仏の願いに生きよう

仏の願い

平成 20 年 西雲寺だより 春号



本山落慶法要参拝

家族の絆

毎日のように報道されている家庭内における殺人事件、或いは年間三万三千人を超える自殺者等、今日日本は深い闇をかかえています。その原因に家族の崩壊が関わっているのです。

十数年前になります、ある先生が「現代の家庭はインスタント食品を囲む共同下宿だ」といわれました。一つ屋根の下にいるけれども、お互い個室の中に入ってバラバラである。私も大学を卒業してしばらく下宿屋生活をしましたが、食事は下宿屋のおばあさんの手作りでした。しかし今日、母親は勤めで忙しく、食卓に並ぶのは、スーパーで買ってきた出来上がり品ではないでしょうか。また、両親の勤めや子供の学校の帰りがバラバラで、夕食をいっしょに囲むという一家団らんもなくなってしまいました。

家という字をみますと、「」は屋根、「」は豚です。一つ屋根の下に豚が住んでいるのが家という字です。なぜ豚という字が書いてあるのかというと、豚といるのはたくさん子供を産んで育てるからだそうです。そこから家は子供を産

んで育てるところという意味をもっているのです。子供を産んでも育てるといふことは大変むづかしいことですが、育てるといふところに子供も大人も共に育っていくということが大切なのではないでしょうか。幸い各家庭にはお仏壇があります。これが育ち合いの場なのです。己の自我が省みられて唯一頭の下がる場所です。「自分をよしと思う心がすべてつまづきの元である」との世界に帰らしていただくのです。

あるご門徒に寝たきりの九十才近いおじいさんの面倒を八十五才のおばあちゃんがこまめにみていたところ、おばあちゃんの方が先にころんと亡くなってしまったのです。さあ大変、ところが息子の嫁がぱつと会社をやめておじいさんの世話をすることになったのです。すると近所から「大学を出て高給をもらっていたのにもつたいない」という声が出たのです。するとお嫁さんは「私は月給はもらっていませんが、おじいちゃんの世話をするようになってから奉公賃をもらっていますの」といわれたそうです。奉公賃というのは無料です。お金で買えない何かがあったかということですが、「それは私が偽者やということが分かせてもらったことです。お世話をするのはおじいちゃんが大事ではなく

世評が大事でしているのです」と告白されたのです。このお嫁さんは南無阿弥陀仏の「南無」の世界を確かに歩んでおられるのです。

またあるご門徒の家で母親の法事が勤まったとき、その奥さんがいわれました。「私の母は二十五年前に亡くなりました。今日は母の法事を勤めさせてもらいますのに母の言葉を思い出します。娘のころ母といっしょに草をむしっていた時、日照りが続き土が堅くて根が深くてむしれない「ああ堅いな、この草は堅いな、しぶとい草やな」といつておつたら、母親は笑いながら、「これこれ、この草は自分のこつちやないか、わしのこつちやないか、聞いても聞いてもしぶといこの根は抜けんやないか」と母は笑いながら言いました。母を思うとこの言葉を思い出します」

このように家庭というものは、お仏壇を中心に、自我がぶつかり合いながらもそれをご縁として、仏智に照らし出されてお互いが人間として育っていくところです。そこに家族の絆が結ばれていくのでしよう。

(住職)

二ツ屋町のお講さま

世話方 栄田一美

二ツ屋町では、お講さまと云う行事が毎月行われていきます。お座敷でお講さまをつとめる町内は少なくなつたと思いますが、だいたい月の後半、第四土曜の夜に、年輩順に家を回っていきます。年に二回順番が来ます。町内には仏光寺派と高田派の家が各三戸ずつ有ります。御経に要する時間は仏光寺派が四十五分位で高田派は三十五分程度です。仏光寺派の家では仏光寺の節でおつとめし、高田派の家では高田の節でおつとめします。当番の家主の先導で御経が始まり、皆がその後に続きます。御経が済むと自治会長が毎月の税金（市・県）や負担金等を徴収したり、町内外の行事を報告したりします。相談ごと、御茶菓子や果物を食べながら決めていきます。仏間の写真を眺めながら昔話で昔を振り返って思い出す時もあります。

私の少年の頃は、早朝より各家々の人達が重箱にご飯を入れて、茶碗、箸等を風呂敷に包んで出かけてました。当番の家の人、前日よりおかず作りに忙しかつたと思います。その後、社会の急速な変化によって、お講さまの時間が早朝から夜へと変わって来たと思われれます。十五年くらい前までは、ビール、酒類も少々出た様です。現在は簡素になりました。

お講さまの意味を辞書で引くと、「仏教で経典を講釈する会」と書いてありました。去年十二月のお講さまに、西雲寺の若様、若奥様も参加して頂き皆さん喜んでいました。将来も伝統ある行事を継続し、町内の人達と助け合いながら楽しく明るく暮らせたなら幸いです。

境内のさくら



傷んでいる樹もあります。



今年も美しい姿を見せてくれました。

本山落慶法要参拝

4月2日



運転手さんもお同行。和やかな旅をありがとうございました。



本山の正門です。



親鸞聖人の御真影がお輿にゆられて座を移られます。



午後からは帰敬式(おかみそり)。皆さん、法名を頂かれました。



楽が奏でられる中、落慶法要が営まれました。私たちも正信偈を唱和しました。

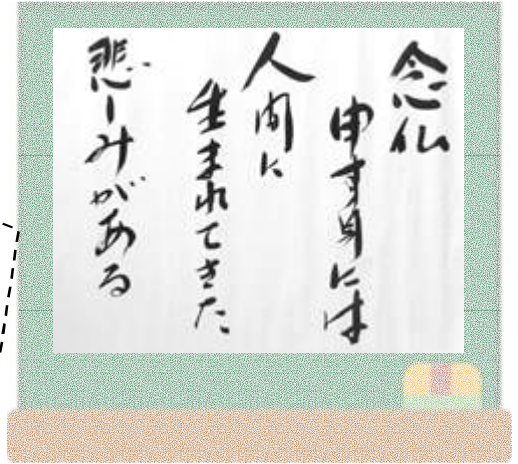


本廟にもお参りし、正信偈を唱和しました。



本廟の桜もきれいでした。

山門掲示板



日本は武士道に象徴されるように恥の文化だと言われる。人前で恥をかかないようにと教えられ、恥をかかされると、自分が悪かったにもかかわらず面子をつぶされたといつて腹をたてる。人間には特に日本人には「悲しむ」という心情は無いのではないだろうか。如来のおこころを「大悲」という。自分を常に「善人」「間違いない」という立場において常に苦しみ孤独に生きるしかない私たちを、久遠劫より悲しみの眼差して撰取してやまない如来のおはたらきである。

親鸞聖人はご和讃に「無慚無愧のこの身にまことのこころはなけれども」といわれる。自分には自分のあり方を懺悔するところなど全く無いのだといわれるのである。しかし、これほど深い悲しみはない。そこに如来の大悲心が届いているのである。(住職)

修行時代の法蔵菩薩は、世自在王仏という先輩のもとで、「諸仏の国(浄土)の成り立ち」と、「国土や住人の善し悪し」とを親見なさいました。親見とは、はつきりと見分けるという意味です。ありとあらゆる仏の国の善し悪しを見分けたいと願われたのですが、数も広さも膨大です。先輩は次のように語られました。「海の水を升(ます)で汲み続けられ、ついに海底の宝が手に入るように、一心に道を求めれば必ず願いはかないます。」

これは、法蔵のようにコツコツと頑張れ！という意味でしょうか？確かに、升で海を汲み取ることく修行を積み重ねる仏教が主流かも知れませんが。親鸞聖人も、善悪を見分けられるよう修行せよと勧められておられるのでしょうか？

違います。私たちが国の善し悪しを見分ける時は、自分の利益を基準に見分けるだけだ、そう言われるのではないのでしょうか。歎異抄では「凡夫は、そらごと、たわごと、まことあることなし」と語り、「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり」と語っておられます。例えば今、世界中でチベットの問題が論じられ、敵と味方とを見分けています。「それは心底悲しむべき見分け方だ」という判断の眼がもしこの私に生じるならば、それは100%法蔵菩薩の願いの力であると、親鸞聖人はおっしゃるに違いありません。仏の願いに依れとおっしゃるに違いはないと思うのです。(编者)

国土人天之善悪

こくどにんでんしぜんまく

親鸞作『正信念仏偈』より

読み方

国土人天の善悪(を親見して)

一行前の親見という言葉からつながっています。

年間行事予定

(平成20年5月～21年3月)

6月中旬 本山差し向け布教

14、15日 西雲寺

16日 安田地区(お宿 未定文好氏宅)

17日 本堂地区(お宿 横山英二郎氏宅)

布教使 新潟 日野宣也師



7月5日(土) 門徒研修会

本山日帰り研修。おかみそりも頂けます。土曜日に休める方など、ぜひご参加下さい。

7月10 11日 永代経

11日はバスが3台出ます。どうぞお参り下さい。

10月17 18 19日 報恩講

18日はバスが3台出ます。どうぞお参り下さい。



11月28 29 30日 御正忌報恩講

29日はおときがふるまわれます。

12月31日 除夜の鐘(どなたでもどうぞ)

1月1日 お正月

午前6時、本堂で晨朝(じんちょう)
午前7時、納骨堂で晨朝

1月1、3日 お年頭

3月20日(祝) 世話方集会



世話方集会のご報告

3月20日に開かれました。

在所の代表者(世話方)の皆さんに集まっていたいただき、今年度のかじ取りをしていただきました。

大遠忌特別積立金を本山に完納した旨、ご報告いただきました。5年に渡りありがとうございます。

平成23年に、本山で親鸞聖人の750回大遠忌がとまります。ぜひバスを仕立ててお参り致しますよう。本山御遠忌の数年後には、皆さんが中心となる御遠忌を、西雲寺にておつとめしたいと思えます。そのため、本年度から積み立てを始めることが決まりました。よろしくお願いたします。

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**
住職 護城一寿
筆頭総代 鈴木春夫
編集責任者 護城一哉
〒910-3523 福井市武周町5-2
電話 0776-97-2138
メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ http://arukou.net/

みなさんの声 大募集!

「西雲寺だより」は、お同行の皆さんと作る新聞です。みなさんの声をお聞きしながら、より身近な新聞にしていきたいと思えますので、原稿や文芸作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。